

あした

薄墨色の影が揺れる

角のない運動

「しなり」が作る波形

かすかな乱れと屈折

滴る時間は

まるで血のように赤い

今年と来年の区別などどうでもよい

今日、そして明日だけでよい

濃い灰色をした擾乱の雲が急ぎ足で空を覆い

ぱらぱらと霰を撒き散らして逃げてゆく

また、うっすらと壁に浮き出す薄墨色の影

もう陽射しは傾きすぎている

熱いコーヒーを啜りながら

涙をぱらぱらとこぼすなんて初めてだ

もう死んでもよいのだ、ということ

もう生きなくてもよいのだ、ということ

こんな生命なんて、どうだってよいのだ

それこそが自由の源泉じゃないか

何のきっかけもなく涙を流しても

ただ微笑されるなんて初めてだ

「ねえ、あした何する？」

「キス！」

*(2012.12.25)*